

公衆衛生 書評

「患者にとってよいこととは？」を ハーバード大学の教授らが分析 『決められない患者たち』

Jerome Groopman, Pamela Hartzband 原著

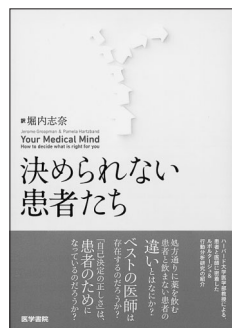
堀内志奈 訳

評者：日野原 重明 聖路加国際病院理事長

今般医学書院から、アメリカでベストセラー作家といわれてきた Jerome Groopman 医師と Pamela Hartzband 医師合作の “Your Medical Mind : How to decide what is right for you” という著書が、札幌医科大学卒業後米国留学の経験をもつ堀内志奈医師によって日本語に訳され、『決められない患者たち』という邦題で出版された。

これはハーバード大学医学部教授と、ベス・イスラエル病院に勤務する医師の二人が、患者とその主治医に密着して得た情報を行動分析して、一般読者にわかりやすく書かれた本である。

何が本当に病む患者のためによいのか。『決められない患者たち』と和訳された原書のタイトルは “Your Medical Mind : How to decide what is right for you” となっている。



●四六判 頁 396、定価 3,360 円
(本体 3,200 円 + 税 5%) 医学書院
刊、[ISBN978-4-260-01737-4]

「何が本当に自分にとってよいのか」に迷っている患者の側に立った本としてすばらしい本だと思い、私はこの書を推薦する次第である。

患者の持つ Problem を有効に解くための手段が果して患者のためになっているのか、医師の指示通りに薬を服用すればよいのか、それは無駄なのかなど、迷っている患者の心情をととてもよく理解し、感心してしまうほどのデータを出して分析しているのがこの本といえよう。

病気にいつかかるかわからない自分や自分の親しい家族に「病気は人間の属性である」といみじくもニーチェが言った。まさにその内容を知らせてくれる名著だと思う。